



会報 第18号

●発行所●
栃木県立真岡農業
高等学校同窓会

●発行人●
同上編集部

●印刷所●
こだま印刷



同窓会長 菊地 恒三郎

本校生の活躍に期待

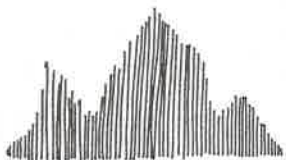
同窓会の皆様には、御健勝のことと御推察申し上げます。

昨年は、記録的な冷夏日照不足の異常気象による米の不作、長びく景気の低迷、そして今も記憶に生々しい津波による奥尻島の大惨事の発生等、暗いニュースが多い年でした。

本校生にとりましても長びく不況による雇用不安から、三年生の進路をたいへん心配しておりました。しかし、生徒皆さんの努力と先生方の御尽力、さらに企業等の協力で卒業後の進路が確保できたことと、誠に喜ばしく思います。卒業後は、この厳しい現況を認識され、本校で学んだ真価を発揮し、明るい未来を拓いていただきたいと思ひます。

明るく、さわやかなニュースもありました。本県を主会場に開催された最大のスポーツイベント平成五年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が大成のうちに幕を降ろしました。高校生一人ひとりが一役を担い、積極的に参加し、友情と連帯を深め、立派に責任を果たして、青春の汗を見せてくれました。本校生の活躍もすばらしく、日頃の学習成果を存分に発揮され、みごとに咲かせた草花をプランターごと県内各会場に配し、訪れた方々の心をなごませてくれました。また、真岡市で行われた空手道・卓球の大会では、吹奏楽部員・大会補助員の皆さんの若さあふれる活動を目のあたりにして、心から拍手をおくったものです。このインターハイで培った貴重な体験がいつまでも青春のアルバムとなり、これからの長い人生の糧として活躍されることを期待いたします。

本校生の皆さんは、緑豊かな大野原において、農業教育のすばらしさを学ばれました。さらに、平成四・五年度の二年間は、栃木県教育委員会より、新科目「課題研究」推進学校として指定され、自らにテーマを課し、主体的に取り組み、解決への喜びを味わいました。この貴重な教育を受けたことに、自信と誇りを持ち、学校生活や実社会において、一層の活躍をお祈りいたします。



学校長 安野 弥一郎

学科再編と農場整備について

八十六年の歴史と伝統に輝く本校に、菅谷前校長先生の後任として昨年四月着任致しました。同窓会の皆様には、本校への日頃の御理解、御協力に深く感謝申し上げます。今後ともより一層の御支援、御指導の程よろしくお願い申し上げます。

本校の現在の学科構成は、農業経営科、農業機械科、食品化学科、生活科学科の四学科五クラスよりなり、科学技術の進展や情報化社会に対応できる教育課程の編成を行い、同時に施設設備の充実を図りながら、近代的産業人として優秀な人材の育成に努めているところであります。同窓会の皆様も新聞等で御承知の事と存じますが、平成七年度より総合選択制職業高校へ編成することになりました。

その背景等について述べてみますと、社会の変化、進路の多様化、生徒数の減少等に的確に対応し、かつ、生徒が目的意識を持って入学してくるためには、個性的で特色ある教育を実現する必要があります。栃木県産業教育審議会「産業経済の発展に対応した職業教育のあり方」の答申やとちぎ新時代創造計画を踏まえて、本校

においても、職業学科の総合化を図り、芳賀地区産業人育成の拠点校として、バランスのとれた職業教育を行い、地域に寄与できる学校に充実発展することが望まれます。具体的には、

(1)変化に対応出来る幅広い産業人を育成する。

農業、商業、家庭の三学科を設置し、学科の区分をこえた複合的な教育を行い、職業に共通の実質的な知識・技術を習得させ、産業・就業構造の変化に柔軟に対応出来る産業人を育成する。

(2)地域産業の変化に対応する。

農業の二次、三次産業化、流通サービス部門の拡大等、地域の産業に急激な変化が生じている。新学科を設置することにより地域に信頼され、生き生きとした学校として地域の変化に的確に対応する。

(3)特色ある学校づくりで活性化を図る。

他学科及び多様な選択学習の導入により、生徒の学習の意欲を高め、職員・生徒の切磋琢磨を図り、相乗効果を期待して活性化を図る。生徒の急減期を迎え、希望によって幅広い学習が可能な魅力ある学校づくりを進め、質的レベルを維持増進させる。

(4)魅力あふれる学校施設

設備を設ける。

生徒の立場に立った、高機能かつ多機能な施設設備を設置し、学習意欲の向上を図るとともに学校を学習の場、生活の場として全人的に活用するものとする。

具体的な学科の構成及び規模として農業系学科を三学科二クラス、商業系学科二学科二クラス、家庭系学科一学科一クラスを予定しております。

農業系学科として、

(1)生物生産科(仮称)

農業生物の育成を通して農業に関わる基礎的な知識・技術を習得すると同時に、バイオテクノロジー、エレクトロニクス、環境制御等の先端技術を習得させ、時代にあった農業経営者を育成しようとする学科である。

(2)農業機械科(仮称)

従来からある学科で大型農業機械の運転操作や保守管理についての基礎的知識・技術を習得し、時代にあった農業経営者の育成と農業機械関連産業、自動車関連産業等に就事する技術者を育成しようとする学科である。

(3)食品化学科(仮称)

これも従来からある学科で第二次産業分野として、食品の加工・貯蔵・品質管理・食品衛生等の基礎的知識・技術を習得

し、食品関連産業分野に従事する技術者を育成しようとする学科である。商業系学科として

(1)ビジネス会計科(仮称)

産業経済の変化に柔軟に対応し、かつ経営管理能力を備えるための基礎的な知識・技術を身につけた人材を育成しようとする学科である。

(2)情報処理科(仮称)

情報機器を駆使した経営管理能力の基礎的知識・技術を習得し、経理事務関連の業務に従事する人材を育成しようとする学科である。

家庭系学科として

(1)教養福祉科(仮称)

福祉に関する知識と技術を身につけた福祉介護事務に従事できる人材並びに社会福祉を理解した社会人を育成しようとする学科である。

以上の様な学科を予定しておりますが、先輩諸兄の築かれた輝かしい校風を引き継ぎながら時代にあふらしい新真岡農業高校にして行きたいと思ひます。

本校では現在、農場の整備も実施している所であり、昭和三十年代後半に、熊倉町より現在地に校舎等が移転したのを機に建てられたものでありますが、老朽化が著しい事と農場の横を真岡・井頭公園間の道路が出来、交通の危険等から本館に隣接した所に農場を確保していただき、あわせて今までの農場の中心地に平成四年度より三年計画で施設を移転整備している所です。



勲四等瑞宝章を受章 して真農高を偲ぶ

元校長 高根澤 富男

平成五年春の叙勲で勲四等瑞宝章の榮譽に浴することのでき、逸早く真農高創立記念日四月二十日の同窓会総会の席で叙勲祝賀会を催して戴き感激一入でした。この榮譽は総て真農高の功績に陰であると感じています。

私は戦後茂木農学校を振り出しに、真農高・栃農高・鹿沼農高・鹿農高・真農高と二十三年間農業教育一筋に歩み五十五年四月退職し郷里茂木町教育長を八年勤め、現在は農業に汗を流し、その活動に精出しています。



真農精神のお蔭で

昭和十五年度卒

高根澤 邦

私、平成四年秋の叙勲に際しまして図らずもその榮に浴し勲四等瑞宝章を受章することができました。身に余る光栄で感激しております。特に皇居豊明殿において天皇陛下の拝謁を賜わり深く感銘致しました。

これも偏に真農在学中に賜った諸先生の御教導をはじめ諸先輩など同窓会の皆様の御厚情御支



生涯の感激

昭和七年度卒

岩崎 正三郎

私は遠い昔の昭和五年四月、農家の子弟として昭和初期の農村に就職し、全生徒一五〇名の御校にお世話になりました。昭和八年三月に卒業、幸い望外の就職には恵まれた栃木県師範学校に入学、全く異なった教育の道に進むこととなった。

私は遠い昔の昭和五年四月、農家の子弟として昭和初期の農村に就職し、全生徒一五〇名の御校にお世話になりました。昭和八年三月に卒業、幸い望外の就職には恵まれた栃木県師範学校に入学、全く異なった教育の道に進むこととなった。



農業士に認定されて

昭和三十五年度卒

大内支部 水沼 弓夫

私は、平成四年度栃木県農業士として、平成五年一月十一日栃木県公館におきまして、知事より認定書を頂いてまいりました。自分では農業士になったとは思っていませんが、研修生の受け入れに務めたいと思います。後継者を作るといことは大変戸惑いを感じております。

私も、平成四年度栃木県農業士として、平成五年一月十一日栃木県公館におきまして、知事より認定書を頂いてまいりました。自分では農業士になったとは思っていませんが、研修生の受け入れに務めたいと思います。後継者を作るといことは大変戸惑いを感じております。



青年部活動を 振り返って

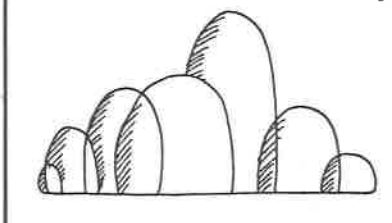
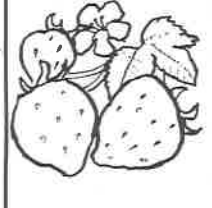
昭和五十九年度卒

大内支部 菅谷 佳宏

私が、本校の同窓会の青年部長を引き受けてから早や一年が過ぎ去ろうとしています。今、この一年間を振り返ってみると、先生方・先輩方の御指導のもと無我夢中で過ごしたように思い出されます。

まず、学校祭ですが、役員さん方の御協力もあって、久しぶりに会った後輩達と共に無事成功をおさめることができました。協力する立場の私達が、学校祭に参加させていただくことにより、一緒に楽しむことができました。そして、卒業してしまっても母校をより身近に感じることができ、様々な行事にも、先生方先輩方、役員さん方、そして後輩達とのふれあいを通じて、参加させていただくことができました。心をより感謝しています。

今後とも、皆様の御指導を賜り、未熟ではありますが、同窓会青年部長として本校のために努力を惜しまず、協力させていただきます。ご指導ご助言の程、よろしくお願いいたします。



優良農家紹介

我が家の農業経営



昭和四十四年度卒
真岡支部 稲葉 健 治

私は昭和四十四年度に真高を卒業と同時に就農しました。

就農当時我が家は、米・麦を中心に少面積でしたが、

その後農業後継者育成資金などを借り入れ、大型ハウスにと面積の拡大に、又施設の充実にと努めてきました。

現在我家では、苺女峰を栽培していきたいと思

我が家の農業経営

昭和四十一年度卒

山前支部 大根田 克 巳

私は昭和四十一年度真

農を卒業しました。高校の時から農業を手伝って

抗もなく就農しました。当時は米とトンネル苺を

現在米200a・麦8a・苗18aを経営しています。労

導員の方々から夜冷施設

っている所です。

来年以後、米の輸入も

この度私の様な未熟な

厳しい農業情勢ではあ

り合つて地域農業の発展

農業情勢も厳しく、そ

もあります。

入し出荷も楽になりました。

J A指導員普及所の方

なり、又仲間達との情報

比較的暇な六月には地域



我が家の農業経営

昭和四十六年度卒

大内支部 手塚 勉



私は、昭和四十六年度

に就農し現在に至つてい

現在、酪農プラス水稻

酪農経営で、粗飼料確

保は重要ですが、我が家

昭和五十一年度には、

大型機械を導入し、機械

利用組合を作りましたが、

乳牛一頭当りの能力を把



我が家の農業経営

昭和五十八年度卒

久下支部 仁平 芳之



私は、真岡農業高校を

卒業すると同時に就農し

防しなくてはなりません。

私が、十年前に始めた

当時の苺の品種は、ダナ

私の家では、父が農業

部会長などの役員をして

それから、今の農業は、

全国的にも後継者不足な



おいしい

いちごは

「栃木の女峰」

私は、地域のスポーツ

ソフトボールやバレーボ

ユニケーションをとりな

それから、今の農業は、



我が家の農業経営

昭和三十七年度卒

中村支部 石塚 幸 宏

私は昭和三十七年度に

夢の様な思いでありまし

農業情勢の厳しい問題

が山積する中で、二十一

世に受け、普及所、J

御指導を受け、地域農業

の発展と魅力ある農業を

目指して努力して行きた

いたと思います。



優良農家紹介

卒業からの変遷



昭和三十六年度卒
中村支部 直井 貴 是

私の卒業は、昭和三十
六年度である。当時長男
の立場の者は極自然に家
業である農業の道に入っ
たものであり、私も同じ
様に農業に従事したもの
です。時の経営面積は、
田一・二五ha、畑一・三
haの中農クラスでした。そ
れを大の方で近づける為
に開墾を思い立ち、合せ
て椎茸栽培を取り入れる
事にしました。昭和三十
八年に開墾に取り組み、
四年間をもって開墾面積
一・五ha、椎茸原木二・
〇〇〇本を確保、合せて

我が家の農業経営



昭和四十七年度卒
宇都宮支部 菅 谷 良 男

私は昭和四十七年度に
本校を卒業し、一年間、
県農業試験場に果樹の研
修生として学び、就農し
二十一年をむかえました。
当時の経営は梨を中心
に、落花生・里芋という経
営でしたが、昭和五十七
年に梨専業の経営にふみ
きりました。又、昭和五十
九年には、りんごを一部
導入し、現在梨25a、りん
ご40aの栽培を行ってい
ます。

現在、農業情勢も厳し
い中ではありますが、こ

我が家の農業経営を 考える



昭和三十九年度卒
芳賀支部 黒 崎 正 芳

頃から工業団地の造成、
企業の操業が始まり、人
件費の高騰へと結びつき
雇用農業ではやってゆけ
なくなり、葉煙草規模拡
大の頃より畑・田の借り
受け小作を続ける様にな
り経営面積は多くなり手
間のかかる葉煙草栽培を
やめ、畑を陸田にかえて
米・麦・大豆の単純作物
経営へと切り換え、その
間に結婚をし二男一女に
恵まれ、現在田七・六八
ha、畑四・二ha、計二・七八haの
大きい部類に入る経営を
しています。当地区は
都市化が進み大規模区画
整理事業(宅地造成)が平
成十年を目標に進められ
ています。今まで順調な
伸びを示してきましたが
これからが正念場と思い
地域の信用信頼を大切に
精進に励みたいと思っ
ています。

我が家の農業



昭和五十四年度卒
茨城五所支部 間々田 ヤス子

私は昭和五十四年度に
卒業し、十年間会社勤め
をし、下館に嫁ぎ、育児
の傍、農作業の手伝いを
続け現在に至っています。
私の家は、小一を頭に
三人の子供がいますので
毎日あわただしく過ごし
ています。そうした中、
私の様な駆け出し者が優
良農家表彰の栄誉に預か
りました事は、私はじめ
家族一同大変有難く光栄
に思っています。

水稲210a、苺20a、玉葱
10aを作付けしていますが

ます。そして、防ヒョウ
網等も設備され、梨栽培
に万全な処置を取ってい
ます。

しかし、農業は天候に
大きく左右されます。収
穫期の天候が消費に大き
く影響を及ぼすのは当然
です。雨天の続く日は値
段の下落が非常に大きく
又市場においては、収穫
期が他県と競合すると値
段が上がるという問題
が一つの問題であります。
そして、農業全般に叫
ばれている「農業後継者
の減少も大きな問題であ
ると思います。今後就農
人口が少なくなり、労働
力がなくなってしまうと
梨栽培にも限度があり、
困難な経営になると思
いますが、機械等の多用化
そして栽培母体の合理化
により、意義のある農業
経営と豊かな生活が出来
る様、努力して行きたい
と思っています。

に思いますので、子供の
成長と同時に、仕事する
時間も増えますので、品
質向上・生産量の確保に
努め、畑も50aあります
ので野菜や草花を育て、食
生活の面でもゆとりがあ
る日々を送って行きたい
と考えています。

近年、我が家では、あ
らぬか、鶏ふん、水を合
わせた堆肥づくりに力を
入れ、作物の品質向上と
収量増加を図っていこう
と努めています。又、自
然状況や気候条件等が毎
年違う中、作物を育てる
のはとても困難です。そ
の上、病害虫の防除と、
問題はさまざま出て来ま
すが経験を生かし、一年



ご挨拶とPTA活動報告



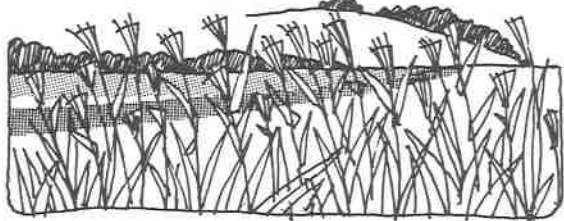
昭和四十年年度卒
PTA会長 金子 洋

同窓会員の皆様には、
益々御健勝のこととお喜
び申し上げます。又、P
TA活動には日頃より御
指導・御支援を賜わり深
く感謝いたすと共に、厚
く御礼を申し上げます。
世の中は、とどまるこ
となくどんどん変化して
参ります。変化に伴う
不安や悩みが色々な所
で見られます。
農政問題にしてもそう
です。農産物の輸入自由
化問題などはじめとし
て色々な問題がしばしば
目に入るようになって参
りました。

教育問題でも文部省は、
新学習指導要領の全面実
施を控え、学校教育が大
きく変わろうとしており
ます。
県教委は、農業高校を
中心とする学科再編に取
り組んでおります。平成
七年度から真岡農業高校
を総合選択制職業高校と
して再編する方針であり、
真岡高の商業科と真女高
の家政科を組み入れる方
向で検討しているとのこ
とです。又、学校名も変
更するとのことのように
です。同窓生の一員とし
て校名が変わるのは、何
か物淋しいものがあります。
変化の中に新鮮な驚き
を感じ、新しい対応を工
夫していく楽しさを味わ

子供の教育に対する関
心が高まると高まってい
る中、月一回の学校週五
日制が定着しつつある中
で月二回にすることを検
討していると聞いており
ます。二十一世紀を目
前に控え、高校教育界を取
りまく諸問題は、山積し
ており、我が国の高度な
科学技術の開発に加え、
情報化・国際化・高齢化
の進展など、国内外の社
会変化を的確にとらえ、
二十一世紀を心豊かでた
くましく生き、社会に貢
献できる青少年を育成す
ることが、私たちの大き
な課題ではないでしょう
か。

今後ともPTAに皆様
方の御指導と御支援を宜
しくお願い申し上げます。



優良農家紹介

我が家の農業経営



昭和四十八年度卒
大内支部 海老原 恵一

私は、昭和四十八年度に卒業と同時に就農し、又、4Hクラブにも加入しました。当時は、団体活動も活発に勉強会、各地域の意見発表会、実績発表会、親睦会などの交換会がおこなわれていました。七年間の入会でしたが私にとっては多くの人の出会いには有意義であり、充実した日々を送る事ができました。

私の学生時代には両親が、落花生・麦・陸稲の畑作中心で野菜類の作付けはあまりされていませんでした。冬は、季節風により、土ぼこりがたつような軽い土でしたが、陸田にする事により土も少し重くねばりもある様になり野菜の作付けも増えはじめてきました。

当時は、水稲・トンネル栽培のプリンスメロン20a、その他の野菜が30aでした。

しかし、現在では、両親・妻・私の労働で水稲130a、プリンスメロン35a、カボチャ30a、ニラ20a、その他30aで、野菜十水稲と言う形に変わってきました。転作面積も陸田面積の三分の二にまでもなり田畑転換もできなくなり、同じ所で作物を作らざるを得なくなってきたという次第です。



オランダ派遣農業研修に参加して

農業経営科二年 田崎 秀一

私は、七月十二日から八月六日までの約三週間、第四回オランダ派遣研修に参加しました。

この研修に参加し実りあるものとするために、五回の語学学習を中心とする事前研修がありました。最初の研修では参加生徒十人と引率の先生二人との顔合わせがあり、皆初めての顔ばかりで会話などありませんでした。最後の研修までには他校の生徒も身近に感じられるようになり、気軽に会話を楽しむまでになっていました。それに伴って語学への自信もついてきていました。

事前研修最後の日、結団式、出発前の挨拶回りがあり、県庁・農業振興公社、新聞社などを回り激励の言葉を授け、事前研修を終え、出発に備えました。

出発の日、午前五時、宇都宮駅西口に集合、関係者の方々、保護者に見送られ、成田空港へ向かい、着後、出国手続きをし、出国、約十一時間をかけ、アムステルダムに着、この日はサス・ロイヤル・ホテルに宿泊。

十三日、午前中は、徒歩にてアムステルダム市内を見学、午後は電車を利用し、私達十二人のステイ先の手配をして下さったヤン・ステンベルヘン氏の案内により、ステイ地近郊のロイネンに移動しこの街のホテルに宿泊。

十四日、各自ホテルにてホストファミリーと対面後、フアムステイ先へ移動、いよいよこの日から今までの事前研修や自主的な学習の成果を試すことができるのだと思うと、何か嬉しく感じられました。

この研修は園芸と畜産の二種類があり、私は園芸の研修生として参加していました。園芸参加者は十人中三人で、受け入れ先の配慮により三人が同じお宅にお世話になることになっていました。

で、会話などに詰った時には協力することができると、言語に対する不安感は消えていきました。私が二週間お世話になったヤンさん一家は、ご主人と奥さん、そして長男・長女の四人家族で、長男の彼女がたまに遊びに来ていました。経営内容は千二百種の草花を栽培し、プリムラだけで二万本、全部で三十万本ということでした。

ヤンさんの農場では、ポッティングマシンの利用した流れ作業による花苗の移植を行っていました。農場にはアルバイト生が常に三〜四人は来ていて、移植作業をしていました。奥さんは外に仕事を

で移動し、現地のガイドの案内で市内を見学、宿泊しました。

◆◆平成不況下の進路問題◆◆

進路指導部長 稲葉 光國

当初春頃には回復の兆しが見えるであろうという期待に反し、平成五年は前年を上回る経済の落ち込みが続き、加えて冷夏と100年に一度という大凶作・円高が重なって、金融・不動産関連企業の業績不振はもとより、製造業・販売・サービスをも含めて全業種に不況が広がってきました。各企業ともリストラを断行し、人件費を削減する方針での就職戦線という最悪の年になってしまいました。

就職戦線でもっとも影響を受けたのが大学・短大・専門学校だったようです。高校でも公務員や一般企業の事務職志望者は各企業とも求人数を減らしたうえに、大学・短大からの受験者があったために大変厳しい環境でした。特に自衛隊関係は昨年までは様相が一変し、応募者250名に対し、採用は60数名という狭き門で安易な受験は出来ないう状況になってきました。

幸い、本校生徒の場合昨年並みの5.3倍の求人倍率があり、大多数の生徒が希望する企業に就職できましたが、各企業とも募集人員を一二名に絞り込んできているため女子の求人が激減し、第一希望で就職の内定のできない生徒が多くでてしまったのは残念でした。

平成六年度は三月決算の影響が出て、昨年を上回る深刻な雇用問題が出てくると思います。どんな仕事も自分の適性に合っているかどうかを十分検討させ、定着率を少しでも高めて、地域産業の信頼を得られるよう努力して頂きたいと考えています。

進学については約50名の生徒が挑戦しました。まだ最終的な結果は出ておりませんが、国立大学に一名挑戦し、短大は合格者が三名、栃木県衛生福祉大学校一名、栃木県農業大学校五名が合格しております。昨年よりは多いものの合格率が低下しています。

進路相談室で英・数・国・小論文の各教科の課外を開講するとともに個別指導も重視していきたくと考えております。

昨年同様でしたが志望校の決定が遅いこと、実力がありながらも一歩の努力が不足していたり、逆に現実離れした志望で漠然とした目標のまま受験するといったケースもみられました。何のために進学を希望するのかという問題意識を十分もって努力して頂きたいと思っています。

最後に主な就職・進学先をかかげておきました。参考にして頂ければ幸いです。

就職先

【進学】

- 宇都宮大学
 - 佐野女子短大
 - 聖徳栄養短大
 - 埼玉純真女子短大
 - 栃木県衛生福祉大学校
 - 栃木県農業大学校
 - 氏家高等産業技術学校
 - 日産自動車整備専門学校
 - 関東自動車整備専門学校
 - 真岡フジータカレッジ
 - 宇都宮ビジネス
 - 国際情報ビジネス専門学校
 - 宇都宮電子専門学校
 - 宇都宮デザイン専門学校
 - 埼玉歯科技工専門学校
 - 東京調理師専門学校
 - その他
- 【就職】
- 真岡市農協
 - 益子農協
 - 上三川農協
 - 日産自動車
 - 神立金メッキ
 - 小松製作所
 - 大和製作所
 - 土屋製作所
 - 協和製作所
 - 栃木県衛生福祉大学校
 - 栃木県農業大学校
 - 氏家高等産業技術学校
 - 日産自動車整備専門学校
 - 関東自動車整備専門学校
 - 真岡フジータカレッジ
 - 宇都宮ビジネス
 - 国際情報ビジネス専門学校
 - 宇都宮電子専門学校
 - 宇都宮デザイン専門学校
 - 埼玉歯科技工専門学校
 - 東京調理師専門学校
 - その他

活動報告

生徒会活動をふりかえる

顧問 白 滝 知 大

今年、平成五年度の生徒会活動は、夏の高校総体が栃木県で開催されたことや、秋の学校祭が一般公開されたこともあって、例年になく密度が濃いもので、役員にとつては精神的・肉体的な負担がとて大変だったことと思います。

しかし、そういった状況にもかかわらず、本校生徒会の今年の活動は、例年以上にエネルギーがみなぎったものでした。

まず、本校生徒会活動の特色の一つでもある益子養護学校との交流活動（交流会・運動会・学習発表会）は、農場部や諸先生方の協力もあり、前年度以上に工夫をこらしたものでありました。生徒会役員以外の生徒からも積極的な参加があり、参加者一同心に残る体験を得ることができました。

しかしなんといっても今年度生徒会活動の中で最も特筆すべきことといえば、約五十年に一度本県で開催される高校総体に携わることができたことと、三年に一度の学校祭公開を経験したことだと思えます。

高校総体では、役員一同夏休みを返上し、一人

助けながら、自分達自身で仕事を担い、段取りをして、活動してくれました。

一年が過ぎるのは本当に早いもので、今年度の行事もあと「予餞会」を残すのみになりました。

この「予餞会」は、新たに選出された役員が初めて運営を行う行事であり、今まで頑張ってくれた三年生に対して感謝と激励の気持ちを表すために行うものです。我々顧問職員も卒業する役員生徒に、感謝の気持ちを込めて「予餞会」を迎えたいと思います。

新役員も今年の役員同様頼りにする生徒が揃っていますから、来年の活動も今年と同じくらいにいや、それ以上に活発になることが期待できます。

我々顧問職員も生徒の熱気に負けることがないように、頑張っていきたいと考えておりますので今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



農業クラブの一年

顧問 川 原 井 英 男

今年度の農業クラブ活動は、会長の間宮洋介君をはじめ十七名で運営してきました。

次に本校クラブ員が出場した農機の発表・競技会の成果を紹介して、活動報告をさせていただきます。

意見発表会には、校内大会で最優秀を獲得した農経科二年田崎秀一君経営や流通に関する問題）生活科学科三年高松美幸さん（産業人としての生き方に関する問題）、生活科学科三年手塚和子さん（文化や生活に関する問題）の三名が、那須拓陽高での県大会に出場しましたが、残念ながら最優秀賞には至りませんでした。

プロジェクト発表では経営や流通に関する部に生活科学科二年小嶋美紀君、食品化学科二年大谷

千晴さん、生活科学科三年上野幸子さん、手塚和子さんの五名が、校内大会の結果、本校代表として、愛知県開催の第四十四回全国大会に参加しました。その結果、二年連続出場の子君哲也君が、見事入賞を果たしました。

家庭クラブ活動を振り返って

顧問 谷 田 部 幸 枝

平成五年度は、「より多くのクラブ員の参加」を目標にして、会長の柳さんを中心に本部役員九名、各クラスの代議員二名、そして四名の顧問が力を合わせて活動してきました。

今年度の行事を振り返ってみると、一学期にはクラブ紹介・総会・被服講習会・料理講習会・保育実習。二学期には、作品展・学校祭・料理講習会。三学期には、料

学校祭を振り返って

生徒会長

生活科学科三年 手 塚 和 子

昨年の十一月六日・七日の二日間、九十三年度の学校祭が開催されました。本年は二年に一度の一般公開の年でした。クラスや部活動、各選択教科等に別れて、様々なことが行われました。

まず、第一日目に行われたのはバラエティ・コロシウムです。毎年恒例の校内発表のステージで本年もたくさんの生徒が出場しました。

二宮町の尊徳太鼓の迫力ある舞台に続き、生徒会役員扮するヌイグルミのオープニングが行われバラエティ・コロシウムが始まりました。

一番手は吹奏楽部の演奏でした。We are the campや揺れる想い等、先生方の歌声と共に計四曲を演奏しました。

七日は、いよいよ一般公開の日です。前庭では、もちつきや

の個性を生かして作り上げた作品も出展され、まあまあの展示会だったと思います。

学校祭は、被服部といっしょの会場で、作品展・保育実習の写真展示・手芸品や手作りお菓子の販売、そして、お汁粉や磯部・ところ天をメニューとした「甘味処」も行ないました。お汁粉の評判は良かったようです。

販売物も売れぬきが良く手作り菓子は、午前と午後に分けて売りましたが

スベアライブを生徒達が作り販売。また生徒達の育てたシクラメンや水耕ミツバ等も販売されました。

校内では、一階はバザーや農産物品評会等の会場と食堂となっており、二・三階は、諸部活動の作品展示や占い、部誌発行、軽音部の演奏や茶道部のお茶会等の他に、クラス単位で駄菓子屋を開いたり、各教科での研究成果等も展示・発表されていました。

いっしょに忙しいうちを過ごした生徒もいました。しかし、そういった生徒達にとつても、一般の来校者の方々も、楽しい一日だったのではないのでしょうか。

編集後記

今回も編集委員五名が集い、熱心に作業を致しました。学校長の挨拶にもあります様に、平成七年度から、私達の母校も大きな変革を迎えます。

古き良き時代を懐かしむ私達には、さまざまな思うところですが、これも時の流れであり、これから新しい歴史が作られて行く事に理解を示すばかりだと思えます。

いざと言う時に潜在的な力を有する同窓会が、この年も菊地会長を中心に豊かな力添えを惜しまない事を心より願っています。

この会報がより多くの会員の手に届けられるよう期待するのみです。編集委員長 井野 博